

第28回

斎王 まつり

語り継ぐいにしえのロマン



平成22年

6/5(土) (雨天の場合中止)

前夜祭 18時～21時

斎王市 15時～21時

斎宮歴史博物館会場
開会式・禊の儀・斎王他出演者披露

6/6(日) (雨天の場合中止)

斎王群行 13時～15時

上園芝生広場～斎宮歴史博物館

斎王市

アトラクション

10時～15時

主催 斎王まつり実行委員会
フォトコンテスト作品募集

三重県明和町



Mayfield Susannah
(鈴鹿市)



江崎 和季
(伊勢市)



桑原 香
(鈴鹿市)



村瀬 結比
(守山市)

舞人



北村 遼子
(伊勢市)



板谷 有紗
(伊勢市)



執行 ひろみ
(鈴鹿市)



須崎 愛美
(多気町)

舞人



楠松 果穂
(鈴鹿市)



頼垣 明香
(守山市)



岡森 義貴
(名張市)



鈴木 直孝
(四日市市)



倉谷 美香
(鈴鹿市)

檢非違使



松本 直也
(伊勢市)



Jake Jung
(明和町)



辻 泰
(鈴鹿市)



奥田 黜
(四日市市)

風流參



子供齋王



石川 綾美
(松阪市松江小)



齋王

瀬田 萌
(明和町)



川口 茉莉
(名古屋市)



小田 真麻
(志摩市)



加藤 江理
(大坂市)



佐田千奈美
(明和町)



関田 萌
(鈴鹿市)



幹野 真智子
(鈴鹿市)



横口 満里奈
(松阪市)



加藤 ゆい
(四日市市)



乾 友里
(大坂市)



中北 沙良
(伊勢市)



奥山 莘代
(多気町)



石川 愛
(松阪市)



村上 恵里
(鈴鹿市)



石田 桂
(鈴鹿市)



成瀬 彩
(鈴鹿市)



三好 美香
(鈴鹿市)



山本 雅樹穂
(大阪市)



田端 梢子
(鈴鹿市)



三鷹 緑理子
(伊勢市)



井端 麻衣
(鈴鹿市)



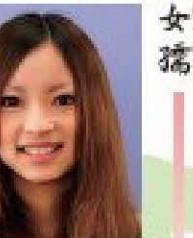
舞人



田端 梢子
(鈴鹿市)



三鷹 緑理子
(伊勢市)



井端 麻衣
(鈴鹿市)

配役

女別当

命婦

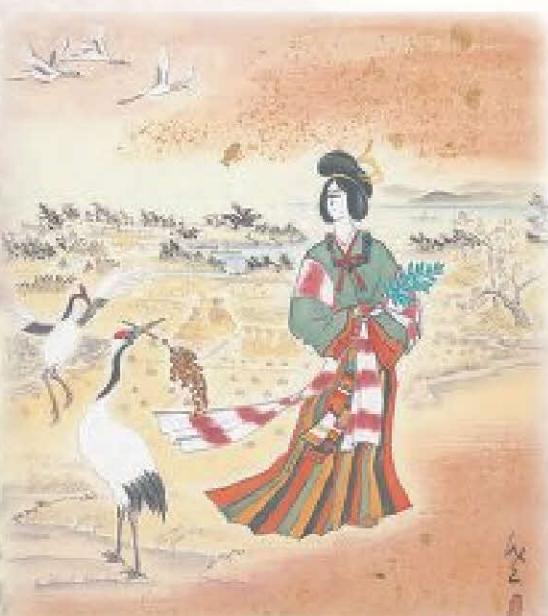
采女

女孺

命婦

采女

女孺



童·童女 出演者

(順不同)



小田	川上	黒坂	濱口	三宅	石神	中野	中野	岡本	阪井	長澤	村田	鈴木	鈴木
朱里	詩乃	麻由	萌音	亜美	芹奈	真果	木樺	凧布	真有	莉乃	陽菜	紅葉	心



堀井 梨沙 奥田 侑姫 野呂 歩未 鈴木 勝巳 小森 万里香

斎主まつり二十八回を迎える

卷之二

斎王まつりも二十八回を数え、昭和五十八年
地元婦人会有志の「お祭り」からはじまり内容
も随分と変わりました。

祭り」と言つても過言ではありません。

斎王まつり実行委員会はすべてボランティアで構成されております。

で当日の運営を行います

と題し奮闘しておりますが、実行委員会の精一杯の「こころのおもてなし」をお楽しみください。

今後もこの「まつり」を益々充実してまいりたいと思いますので、皆さまのご支援をよろしくお願いします。

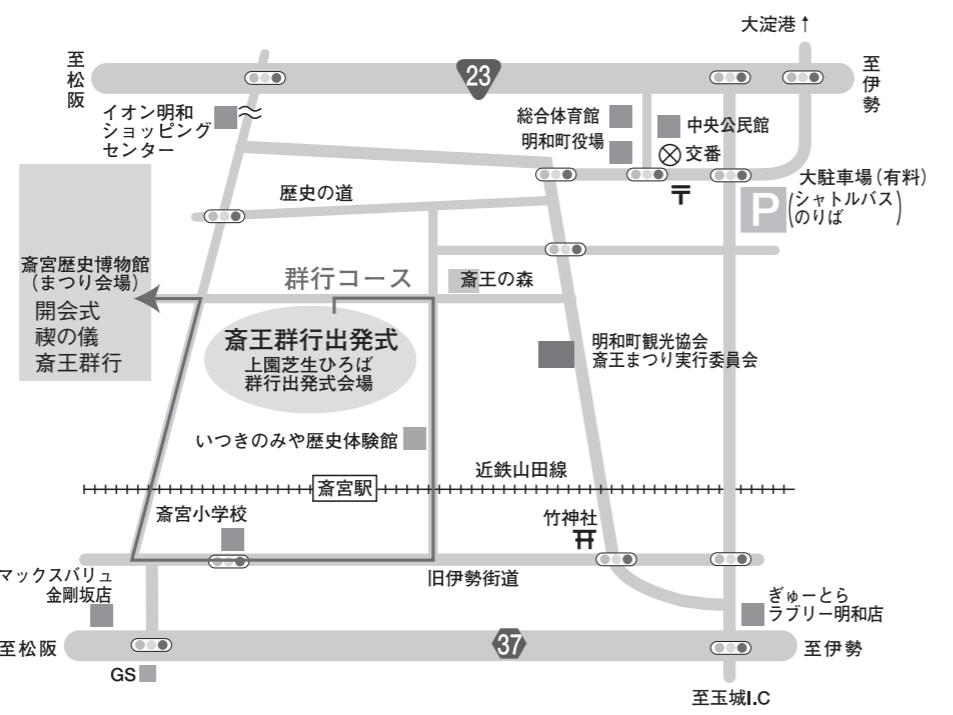
6/6(日) 6/5(土)

前夜祭 斎王市	15 00 → 21 00
斎宮歴史博物館会場	18 00 → 21 00
開会式	
禊の儀	
斎王他出演者披露	
雨天の場合中止	雨天の場合中止
13 00 → 15 00 (雨天中止)	
斎宮歴史博物館会場 ステージで 各種アトラクション	10 00 → 15 00
上園芝生ひろば(斎宮駅北) から斎宮歴史博物館まで 斎王群行を再現	

アトラクション
斎王市
10：00～15：00
斎宮歴史博物館会場
ステージで
各種アトラクション
雨天の場合中止

もくじ

斎王まつり配役	2
斎王まつり童・童女出演者	4
斎宮の歴史語り(その四)	6
斎宮跡の発掘調査	8
御黛(炭)山跡	10
斎王まつり実行委員のページ	12
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	18
斎王まつり実行委員会活動	19
群行衣裳	20
フォトコンテスト	22
第27回斎王まつりの思い出	24



斎王一覧

斎王の伊勢滞在期間は短くて一年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

*は女王（天皇の娘以外の皇族女性）
「」内は実在の確認できない斎王
○は斎宮に群行しなかった斎王
△は斎宮に群行した斎王

△は斎宮に群行しなかった斎王

△は斎宮に群行した斎王

△は斎宮に群行した斎王

△は斎宮に群行した斎王

△は斎宮に群行した斎王

斎王をひもとく斎宮の歴史語り（その四）

ふるさとの語り部 山川 充造

古代より、人間社会のどの国にも集落が点在し、集落のあるところ人心を束ねる人間の考え方を超えた掟があり、それぞれに長が君臨し、その国の歴史が伝えられてきた。

わが国にも遙か昔よりそれらの話は神話とか伝説、或いは歴史経過の一部分として伝承されてきているが、その話の中には、或いは、南方の島々や、中国・朝鮮・ペルシャ、アラビアの国々の話と、わが国の伝承とが混然一体となつて伝わっているものもある。

私は子どもの頃から、途方もない人類社会の不思議さを神話や昔話として聞いたり読んだりしながら、この地に移り住んで約五十年、この地に展開されていた古代から中世に織りなす上流社会の歴史をひもとく程に、いつの間にか千三百年前からこの地に栄えた『斎宮の歴史』六百六十年間を訪れる人に伝承する立場になっていた。

斎宮という故郷

私は平成四年にガイドを趣味として十八年間、案内をした人数は定かではない。北海道から沖縄、ある時は外国人に話しかけた時もある。来訪された方の一部に『斎宮』を読めない方もいる。議論すれば、『宮』を『クウ』

か『グウ』かの問い合わせに対し、地名も印刷物も『クウ』ですとのお答えに対し、「あなたは『サイクウ』と説明しているが、伊勢神宮は『ジンケウ』ですか」と返ってくる。「伊勢神宮は『ナイクウ・ゲクウ』と読みます」これらは『ナイクウ・ゲクウ』と読みます」これらの議論は笑い話で終わるが、来訪客にとっては大切な疑問であろう。

巫女から皇女へ

史書によれば、伝承と数えられる時代にも、神に仕える『御杖代』と呼ばれる女性が存在していた。『斎王』という言葉も文字も無い時代であり、人類を超えた『神の魂』に仕えることが出来るのは全て女性であり、史書には巫女と記され、古代社会の最高の立場にあつた朝廷の未婚の皇女から『龜卜』（龜の甲羅で占う）という中国伝来の方法で選ばれていたと記されている。

古くより、伊勢神宮は天皇家の先祖と伝承され、鎌倉時代の頃までは、天皇家に代わってその祭祀の主役を務めるのは『御杖代』すなわち巫女であり、制度により、天皇一代に一人の未婚の皇女が斎王になることが決められていた。

六百八十五年に初めて伊勢神宮の遷宮が始

まり、制度を発願され、神と語られた天武天皇は、その悲願の完成を見るともなく一年後には崩御された。

斎宮歴史の年表には、歴史時代と位置づけられた『壬申の乱』より十四年、天武天皇は日本史の幕明けを怒濤の如く走りすぎた時代であった。

いっぽう、飛鳥時代より取り組まれてきた新しい国を目指す基本法は、『大宝律令』となつて完成し、時代の羅針盤の役目を担うようになつた。

藤原宮

六百九十四年に、飛鳥淨御原宮の北の方角、今の橿原市高殿町あたりの広大な土地に遷都した都是藤原宮と名が付けられた。それより十六年間を経るなかで、大宝となつた年号の中には色々な歴史的な記録が残つていった。

十二月には斎宮歴史の巻頭には必ず登場する哀しい姉弟の物語、大来皇女が薨去された。二歳年下の（弟）大津皇子のことを『わが背子』とまで詠まれ、相愛の仲と後世まで羨望が残る。万葉集（巻二）には六首残る歌に興味を持たれて斎宮を訪問して頂く方も多い。

「女性哀史ですね」とボツンと語られ涙した女性があつた。斎宮の歴史を愛し、何度もこの地に訪ねて来られ、私も何度かガイドの機会にお逢いしたようであるが、『女性哀史』の女性の（声）と（涙）のあつたことは心に残つているものの、それ以上のことはガイド冥利として私の心の奥には「詩」の響きとなつて閉じられたままで定かではない。

参考資料

斎宮志 楊村 寛之 竹の斎王語り 山川 修司

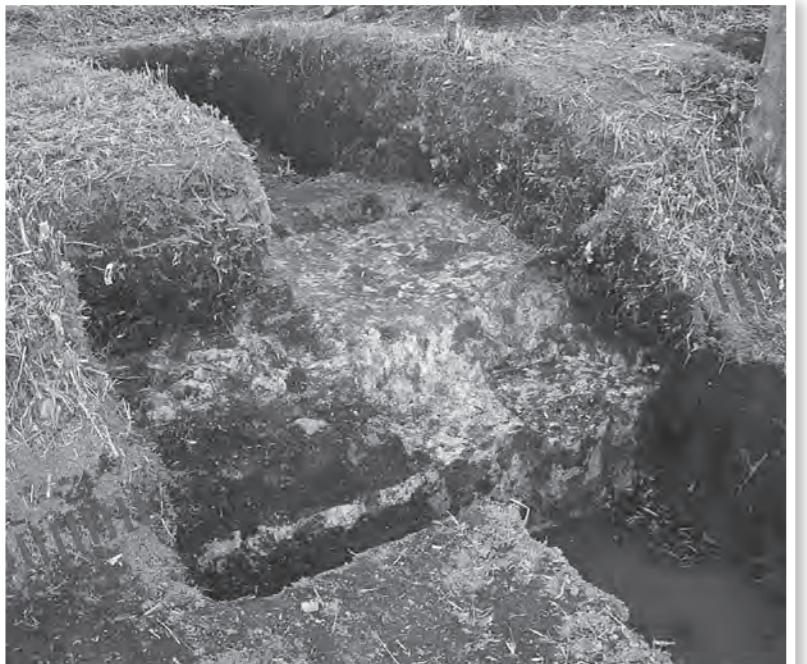
南北朝	鎌倉	平安	
○△懽子（よしこ）	△辨子（まさこ）	○柔子（やすこ）	八九七） 九三〇
△祥子（さちこ）	○△暁子（あきこ）	○雅子（まさこ）	九三一） 九三五
○△潔子（きよこ）	○△好子（よしこ）	○△齊子（きよこ）	九三六） 九四五
○△皇子（すみこ）	○△當子（まさこ）	○△済子（きよこ）	九三七） 九四六
○△皇子（ひろこ）	○△規子（きよこ）	○△微子（よしこ）	九三八） 九四七
○△皇子（きよこ）	○△婢子（たかこ）	○△英子（はなこ）	九三九） 九四八
○△皇子（よしこ）	○△悦子（よしこ）	○△英子（はなこ）	九四〇） 九四九
○△皇子（よしこ）	○△樂子（やすこ）	○△悦子（よしこ）	九四一） 九五〇
○△皇子（よしこ）	○△輔子（すけこ）	○△好子（よしこ）	九四二） 九五一
○△皇子（よしこ）	○△休子（よしこ）	○△好子（よしこ）	九四三） 九五二
○△皇子（よしこ）	○△悟子（あつこ）	○△好子（よしこ）	九四四） 九五三
○△皇子（よしこ）	○△功子（いさこ）	○△好子（よしこ）	九四五） 九五四
○△皇子（よしこ）	○△俊子（きよこ）	○△好子（よしこ）	九四五） 九五五
○△皇子（よしこ）	○△守子（もりこ）	○△好子（よしこ）	九四六） 九五六
○△皇子（よしこ）	*	*	九四七） 九五七
○△皇子（よしこ）	*	*	九四八） 九五八
○△皇子（よしこ）	*	*	九四九） 九五九
○△皇子（よしこ）	*	*	九五〇） 九六〇
○△皇子（よしこ）	*	*	九五一） 九六一
○△皇子（よしこ）	*	*	九五二） 九六二
○△皇子（よしこ）	*	*	九五三） 九六三
○△皇子（よしこ）	*	*	九五四） 九六四
○△皇子（よしこ）	*	*	九五五） 九六五
○△皇子（よしこ）	*	*	九五六） 九六六
○△皇子（よしこ）	*	*	九五七） 九六七
○△皇子（よしこ）	*	*	九五八） 九六八
○△皇子（よしこ）	*	*	九五九） 九六九
○△皇子（よしこ）	*	*	九六〇） 九七〇
○△皇子（よしこ）	*	*	九六一） 九七一
○△皇子（よしこ）	*	*	九六二） 九七二
○△皇子（よしこ）	*	*	九六三） 九七三
○△皇子（よしこ）	*	*	九六四） 九七四
○△皇子（よしこ）	*	*	九六五） 九七五
○△皇子（よしこ）	*	*	九六六） 九七六
○△皇子（よしこ）	*	*	九六七） 九七七
○△皇子（よしこ）	*	*	九六八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九六九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九七九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九八九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九四） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九五） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九六） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九七） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九八） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九九） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九〇） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九一） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九二） 九七八
○△皇子（よしこ）	*	*	九九三） 九七八</

斎宮跡の発掘調査

平成21年度の



第164次 調査区全景



第166次 区画道路側溝



第163次 調査大量の土器

東区画で行いました。調査地は周辺より一段低く、湿地状になつており、湧水によつて調査は大変困難なものでした。調査の結果、調査区のほとんど全域が土取りによつて削平されており遺構は確認できませんでしたが、調査区南端でわずかに残つた区画道路の南側溝の一部を確認することができました。

牛葉東区画の調査は、斎宮跡の南側に位置する牛葉東区画は、斎王の居所であった「内院」と考えられています。第一六三次調査は、牛葉東区画の北東隅で行いました。地表面からたくさんの土器が見えていましたが、調査を進めるにつれ大量の土器が出土しました。調査の結果、ここに大きな溝があり、その溝

柳原区画では、第一五九次（南地区）と第一六五次調査を行いました。第一五九次調査区は、柳原区画に南東隅に位置します、調査の結果、区画の南辺道路と両側の側溝が見つかり、区画の南辺ラインを確定することができました。このほか、斎宮跡を貫く古代伊勢道（奈良古道）、平安時代前期（九世紀）の掘立柱建物や土坑、平安時代後期以降（一〇世紀後半から一二世紀）の掘立柱建物などが確認されました。第一六五次調査は、区画内の建物配置や変遷について詳細に検討するための補足調査で、二箇所で実施しました。

第一六五・一次調査は、これまでの調査で掘立柱建物が密集して見つかっている区画南東部にわずかに残された未調査部分で行いました。たくさん柱穴が見つかり、

牛葉西区画の北東隅で行つた第一六四次調査では、区画の北辺道路の南側溝を確認しました。しかしながら、東辺道路の西側溝は後世の土取りによつてすでに削平されました。目的として第一六四次・第一六六次調査を行いました。

第一六六次調査は、柳原区画の北側の下園

牛葉東区画の調査



平成21年度 史跡斎宮跡発掘調査区位置図

史跡斎宮跡の発掘調査は、開始から四年の節目を迎えることができました。昨年度の調査では、平安時代の斎宮跡の中枢部と考えられる「柳原区画」と、その周辺部でおよそ一、六〇〇平方メートルの発掘調査を行いました。

柳原区画では、第一五九次（南地区）と第一六五次調査を行いました。

第一五九次調査区は、柳原区画に南東隅に位置します、調査の結果、区画の南辺道路と両側の側溝が見つかり、区画の南辺ラインを確定することができました。このほか、斎宮跡を貫く古代伊勢道（奈良古道）、平安時代前期（九世紀）の掘立柱建物や土坑、平安時代後期以降（一〇世紀後半から一二世紀）の掘立柱建物などが確認されました。

第一六五次調査は、区画内の建物配置や変遷について詳細に検討するための補足調査で、二箇所で実施しました。

第一六五・一次調査は、これまでの調査で掘立柱建物が密集して見つかっている区

画南東部にわずかに残された未調査部分で行いました。たくさん柱穴が見つかり、

これまで部分的にしかわかつていなかつた建物の全体の姿を明らかにすることができます。また、新たな掘立柱建物も確認できました。また、当にないのかどうかを確認するために調査を行いました。調査の結果、柱があるだろうと想定された場所に柱穴を確認することができます。SB一〇八〇は西側に庇をもたない三面庇付建物であることが確定しました。

柳原区画に隣接する牛葉西区画と下園東区画で、方格地割の区画道路の実態解明を行つて、これまでの調査で、区画の北辺道路の南側溝を確認しました。しかししながら、東辺道路の西側溝は後世の土取りによつてすでに削平されました。目的として第一六四次・第一六六次調査を行いました。

第一六六次調査は、柳原区画の北側の下園

「柳原区画」の調査

第一六五・二次調査は、区画の西部で見つかったいる東南北の三方向に庇をもつ大型の掘立柱建物SB一〇八〇の西側の庇が本

これまで部分的にしかわかつていなかつた建物の全体の姿を明らかにすることができます。また、新たな掘立柱建物も確認できました。また、当にないのかどうかを確認するために調査を行つて、これまでの調査で見つかったいる東南北の三方向に庇をもつ大型の掘立柱建物SB一〇八〇の西側の庇が本

にたくさん土器を捨てていたことがわかりました。

今後の展望

にたくさん土器を捨てていたことがわかりました。

柳原区画で、往時の斎宮跡の姿を体感できるあらたな拠点づくりが始まります。他に例を見ない特異な性格をもつ斎宮跡の価値や魅力をさらに向上させ、だれもが身近に感じられる開かれた斎宮跡を、今後も皆さんとともに創りあげていきたいと思つています。

（斎宮歴史博物館 技師 角正芳浩）

御黛（炭）山跡

中部ペンクラブ会員 秋野信子

女性の都であった斎宮周辺には、おもしろい伝承が幾つか残っています。その一つが、御黛（炭）山跡です。

黛・眉墨は広辞苑によると、①眉を書く墨②眉を墨で書くこと。また、

その書いた眉。とあります。

今の時代なら化粧品売り場で眉墨ペンシルを購入しますが、千数百年



も前のこと。心地よい海風が吹き渡

る『いつきの里』で故郷の先人たち

は、斎王さまや女官たちの為に黛を

焼いていたのでしょうか。

碑は明和町北藤原にあります。海

岸堤防のすぐ手前右広場の奥の堤防

の下にあり、碑というより標柱です。

炭焼きに精を出す村人は、海を眺

めながら斎宮寮の斎王さま

や女房・女官たちの喜ぶ顔

を思い浮かべていたことで

しよう。

『いつきの里』で、伊勢

神宮用に土器を焼いていた

村人も、代々引き継いだ家

の人々が従事していたと伝

え聞いています。

同じように、黛を焼いていた村人も

代々引き継いだ家の人々が、従事し

ていた可能性も考えられます。

「神都名勝誌」によると、「御炭山」

は、字煙草の一小丘にある。伝え聞

くには、黛（まゆずみ）を焼いて斎

宮に供したところである。とあります。

「勢陽五鈴遺響」は、「古屋草紙な

どは、御炭山は、御墨や壺土器を焼

いたところ」としています。

「勢陽俚諺」などには、斎宮に黛を

献じ、朝廷に車を率く牛を献じたこ

とから、この地を藤原と呼ぶことを

許されたとあります。



「伊勢名勝拾遺集」には、「神鳳鈔」に言う藤原御園が、この地にあったことから、御園山と呼ばれていたものが御炭山に転じたのではないか」とあります。

いずれにしても、斎宮が近くにあつたことから、後世、斎宮に因んで生まれた伝承ではないかとあります。

多くの地誌に紹介されている御黛

山の存在を大切に伝えていきたいものです。

内院にある斎王さまの、お部屋で高貴な方が使われたという鏡に顔を映し、お付きの女官が眉毛を描いている姿を、想像するだけでも、斎王さまに人間らしさ・女性らしさを感じます。

「ト定」という亀の甲羅による占いによつて伊勢斎宮となつた皇女。

華やかな色とりどりの着物を身に纏う女官たちの中心に真白な十二单姿が浮かんできます。

媛の斎王さまが、につくりと微笑む姿が浮かんできます。

業平さまとの逢瀬で知られる恬子内親王も業平さまのお部屋を訪れる前に鏡の前で、眉墨を使つていたのかもしれません。

電気のない時代、密かにであります。ほのかな光のなかで、お姫さまは、自分自



十二单の豪華な品物もあれば、清楚で真白な十二单も身の美しいお姿を再発見されていました。しかし、鏡が、限られたと鮮やかな花畠のように、在だったのでしょうか。

鏡の前で「まゆずみ」の化粧をされる頃に、自らの立場を再認識されていたのかもしれません。

眉墨は身だしなみ目的以外に、現人神であり規則の多かつた姫さまの、大切な持ち物であったよう思えてならないのです。

参考文献　里の史跡散歩
(中部ペン第十四号掲載改訂)





郷土を愛する心

斎王様ゆかりの地である斎宮に生まれ育ち斎王まつりには初回から参加しています。

早いもので、二十八回を迎えた。

多忙な仕事を持ちながらの斎王まつりへの活動は正直なところ、何度か活動を辞めようと思つたことがあります。

同士の励ましあいが今日に繋がつていきました。地道な努力の結果ですが、年々盛況になる斎王まつりに感慨深いものがあります。

初回からのメンバーとして西川道子さん、新田一子さんたちとともに頑張つてきましたが、初回参加メンバーは、り継ぎ、活動していきたいもう一度です。

それぞれの故郷を大切に語り継ぎ、活動していきたいもう一度です。

(八田秀穂)



黒塚古墳展示館（天理市柳本町）

黒塚古墳は3世紀後半～4世紀前半頃の建築。箸墓古墳（3世紀半ば）の少し後、桜井茶臼山古墳とほぼ同じ時期。34面の鏡（三角縁神獣鏡33面、画文帶神獸鏡1面）が出土。

盗掘を免れていたため、ほぼ完全な状態で残存。吉備（岡山）地方の石室工法と近い。

今年再度発掘された桜井茶臼山古

墳では、13種81面の銅鏡が副葬されていたことがわかつた。黒塚古墳、桜井茶臼山古墳ともに、卑弥呼の後の大和の大王墓の可能性が高い。

銅鏡、権力と祈りのあかし。そこに、天照がいるのか？

（東谷 泰明）

訪問場所② 古代人と鏡 そこに天照がいる

黒塚古墳展示館（天理市柳本町）

黒塚古墳は3世紀後半～4世紀前半頃の建築。箸墓古墳（3世紀半ば）の少し後、桜井茶臼山古墳とほぼ同じ時期。34面の鏡（三角縁神獣鏡33面、画文帶神獸鏡1面）が出土。

盗掘を免れていたため、ほぼ完全な状態で残存。吉備（岡山）地方の石室工法と近い。

今年再度発掘された桜井茶臼山古

墳では、13種81面の銅鏡が副葬されていたことがわかつた。黒塚古墳、桜井茶臼山古墳ともに、卑弥呼の後の大和の大王墓の可能性が高い。これは吉野ヶ里遺跡の主祭殿（2～3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

東に三輪山、西に二上山、そして南に箸墓（卑弥呼の墓ではないかといわれている）をのぞむ現地に立て、天照大神、そして幾多の斎王様が住んでいたのではないかと思われるほど大きい。南北19・2m、東西12・4mほどの建物（約238m² 72坪）が建っていた（別紙）。これは吉野ヶ里遺跡の主祭殿（2～3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

弥呼が住んでいたのではないかと思われるほど大きい。南北19・2m、東西12・4mほどの建物（約238m² 72坪）が建っていた（別紙）。これは吉野ヶ里遺跡の主祭殿（2～3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

訪問場所① 邪馬台国 卑弥呼を訪ねて

纏向遺跡（奈良県桜井市）

紀元3世紀半ば、日本は統一されていた。魏志倭人伝に邪馬台国（卑弥呼）の話が出ている。卑弥呼とは「日の巫女」ではないのか？つまり「お日さまに祈りを捧げる皇女」かも知れない。となれば、卑弥呼こそわれらの斎王さまの始まり。日本人の伝統ともいうべき太陽信仰「天照大神」のイメージは卑弥呼からも来ているのではないか。卑弥呼と持統天皇が「天照大神」に結実したのでは？

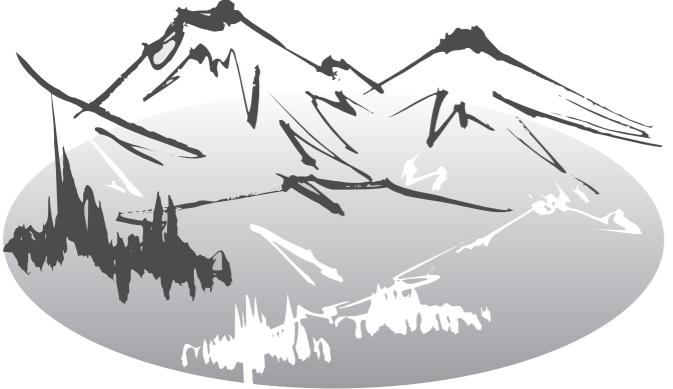
さまざまな思いを抱きながら纏向遺跡を訪ねてみたい。この遺跡は卑

夷呼が住んでいたのではないかと思われるほど大きい。南北19・2m、東西12・4mほどの建物（約238m² 72坪）が建っていた（別紙）。これは吉野ヶ里遺跡の主祭殿（2～3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

東に三輪山、西に二上山、そして南に箸墓（卑弥呼の墓ではないかといわれている）をのぞむ現地に立て、天照大神、そして幾多の斎王様が住んでいたのではないかと思われるほど大きい。南北19・2m、東西12・4mほどの建物（約238m² 72坪）が建っていた（別紙）。これは吉野ヶ里遺跡の主祭殿（2～3世紀）の1・5倍になるらしい。まさに卑弥呼の「宮室」にふさわしい規模だ。

（東谷 泰明）

語り継ぐ
いにしえのロマン



そもそも大海人皇子が東国伊勢から美濃へと脱出したのは、現在の岐阜県安八郡、大垣市、揖斐郡あたりが彼の勢力範囲「湯沐邑」であったからだ。おそらく、近江政権を離脱してから、いや、もつと前から彼はこの時のことを想定して準備に怠りがなかつたのではないか。その結果、1ヶ月足らずで大友皇子は自決（7月23日 新暦8月24日）。大海人は天武天皇となつて飛鳥淨御原に即

672年6月（旧暦）、いよいよ近江朝廷と大海人皇子との間は、一触即発の状態になつていた。前年の10月17日（新暦11月26日）、近江朝廷を出た大海人、鵜野讚良、草壁皇子、忍壁皇子たちは吉野離宮でその時をじつと待っていた。12月（旧暦）に天智天皇は死去。天下は大きな分かれ目を迎えるようとしていた。

6月24日（新暦7月27日）未明、大海人一向は舎人20名、侍女十数名で吉野を出立した。宇陀、隱張、伊賀へと進み、大津京を脱出し、た皇子たちと合流、25日には大勢力となつていた。鈴鹿、不破の関を封鎖してようやく一息ついた大海人は、26日朝、朝明川のほとりで天照大神を望拝した。なんとまる2日でほぼ勝利が見える体制になつたのだ。

また692年の伊勢行幸、そして命の最後の年701年の三河行幸は、斎宮から伊勢への天照の移動「伊勢神宮の創建」に大いに関係する。持統天皇の波乱の一生。天智の娘として生れてのちの天武に嫁ぎ、姉の子大津を追いやり、わが子草壁は若くして亡くなる。皇位を自分の末裔へと受け継ぐことに執念を燃やしながら、天照大神の居所を定める。そういえばちょうどその頃、自分の居所となる藤原京（690年着工694年遷都）をも造つた。天照と持

吉野宮滝（吉野郡吉野町）

訪問場所③

大海人皇子 鵜野讚良は何を思つていたか

672年6月（旧暦）、いよいよ近

江朝廷と大海人皇子との間は、一触

即発の状態になつていた。前年の10月17日（新暦11月26日）、近江朝廷を出た大海人、鵜野讚良、草

壁皇子、忍壁皇子たちは吉野離宮で

その時をじつと待っていた。12月（旧暦）に天智天皇は死去。天下は大きな分かれ目を迎えるようとしていた。

6月24日（新暦7月27日）未明、大海人一向は舎人20名、侍女十数名で吉野を出立した。宇陀、隱張、伊賀へと進み、大津京を脱出し、た皇子たちと合流、25日には大勢力となつていた。鈴鹿、不破の関を封鎖してようやく一息ついた大海人は、26日朝、朝明川のほとりで天照大神を望拝した。なんとまる2日でほぼ勝利が見える体制になつたのだ。

そもそも大海人皇子が東国伊勢から美濃へと脱出したのは、現在の岐

阜県安八郡、大垣市、揖斐郡あたりが彼の勢力範囲「湯沐邑」であったからだ。おそらく、近江政権を離脱してから、いや、もつと前から彼はこの時ことを想定して準備に怠りがなかつたのではないか。その結果、1ヶ月足らずで大友皇子は自決（7月23日 新暦8月24日）。大海人は天武天皇となつて飛鳥淨御原に即

命の最後の年701年の三河行幸は、斎宮から伊勢への天照の移動「伊勢神宮の創建」に大いに関係する。持統天皇の波乱の一生。天智の娘として生れてのちの天武に嫁ぎ、姉の子大津を追いやり、わが子草壁は若くして亡くなる。皇位を自分の末裔へと受け継ぐことに執念を燃やすながら、天照大神の居所を定める。そういえばちょうどその頃、自分の居所となる藤原京（690年着工694年遷都）をも造つた。天照と持



黒塚古墳



1Fより石室を見る図



2Fから石室を見る図

古代ロマンの ネットワーク



吉野歴史資料館

吉野歴史資料館

斎王まつりという伝統文化普及活動を継続する原動力は心から湧き上がる郷土愛である。

私には大きな願いがある。斎宮ネットワークを作りたいのだ。斎宮や斎王に縁のある市町村が集い、サミットやシンポジウムなどを開催したいのである。夢ではなく、願い続けていこうと思っている。私の住む町、明和町は斎王制度として六百六十年間姫様が人々の平安を祈るためにお越しになり、住まわれていた地である。祈りへの清浄な思いは、純粋な心の零となり、伊勢の大地の中に染渡っている。必ずいつか実現へと導いてくれると信じている。都から五泊六日かけて斎王群行した頓宮所在地市町村などにも協力をお願いしたい。

奈良県や京都府は私の住む町、三重県多気郡明和町と本当に縁の深い地がたくさんある。今回訪れた吉野宮滝（奈良県吉野郡吉野町）は、壬申の乱の始まりの地である。この地に斎王まつりのメンバーが

現在、国史跡となつた三重県四日市市久留倍官衙遺跡で『久留倍まつり』を開催している久留倍遺跡を考え続けている。他の関係市町村の方々にも、この輪が広がることを願っている。

立つというのは非常に意味あることである。

六七二年の夏、吉野宮滝（吉野郡吉野町）に、大海人皇子（天武天皇）はいた。これから反乱を起こすのだ。そう思いながら、吉野山の頂に立てていた。

天智天皇の死後、長子の大友皇子（弘文天皇）を擁する近江朝廷に対し吉野にこもっていた皇弟の大海人皇子は周到に準備された計画のなかで壬申の乱を起こした。途中、朝明川の辺で、大海人皇子（天武天皇）は、大照大神に戦勝祈願。この地は、三重県四日市市大矢知町斎宮^{いつき}という。わずか一ヶ月余の激戦の末、大友皇子は自決、大海人皇子は、天武天皇となり、飛鳥淨御原に即位し、律令制が確立する端緒となつた。天武天皇は、実の娘である大来皇女を文献上、最初の斎王として斎宮に赴任させていている。

吉野宮滝は、古代の歴史のうねりを感じさせてくれる場所である。^{うねり} 天武天皇の妻である鶴野讚良（持統天皇）は、在位十一年間で三十一

回も吉野を訪れているという。

持統天皇にとつても、吉野は特別な地であつたにちがいない。

持統天皇の心を吉野に吹く風が教えてくれたような研修旅行であった。

近年、奈良県桜井市で発見された纏向遺跡が発生期の大和朝廷の本拠地であると考えられるようになつた。纏向遺跡のなかに日本最古の大型古墳である箸墓古墳がある。全長二十七メートルにも及ぶものだ。^{やまと} 倭百襲姫を葬つたものと伝えられている。三輪山麓の纏向には、古代ロマンが溢れている。

昨年訪れた斎宮山天神社は奈良県桜井市小夫であるし、今年の纏向遺跡も奈良県桜井市に所在する。纏向遺跡は邪馬台国^{やまご}卑弥呼の宮殿があるという説もある。

九州説もあるがロマンははてしなく広がる。

（八田明美）



図書紹介

私達の「斎宮」について
より多くのことを知つていただきために
一地元で読める斎宮関係図書のご紹介

凡例
 ○ふるさと会館（図書館）で貸出可
 ☆いづきのみや歴史体験館
 ◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可
 ○ふるさと会館（図書館）で閲覧可
 ○博物館ミュージアムショップで販売
 ◇図書館で閲覧可

「斎宮」の入門書として	「斎宮」を知りたい方に	郷土の歴史として「斎宮」を歩いてみたい方に	「斎宮」を行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	「斎宮」や「斎王」を小説で読んでみたい方に	「斎宮」についてみたい方に
谷口布有緒文『里中満智子画「斎王ロマン 都わすれの詩」』明和町○☆ 中野イツ著『斎宮物語』明和町○☆ 山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代文芸社○☆ 榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆	奥井宏忠著『別れの御櫛－斎の宮と斎宮寮』光書房○◇ 明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』○◇ 三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇ 『同II』○◇	内田康夫著『斎王のみち－伊勢斎宮の文化史－』中日新聞本社○◇ 池田美由喜著『鶯草－大津皇子とその姉と－』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸○◇ 『伊勢斎王の恋』近代文芸社○◇ 『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社○◇	田畠美穂著『斎王の葬列』角川書店○◇ 村井康彦監修『斎王の道』向陽書房○☆◇	津田由伎子著『斎王』学生社○◇ 山中智恵子著『斎宮女御徴子女王－歌と生涯－』大和書房○◇ 所京子著『斎王の歴史と文学』国書刊行会◇ 榎村寛之著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇ 『斎王の歴史と文学』国書刊行会◇ 中川ただもと著『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆ 服藤早苗著『歴史のなかの皇女たち』小学館☆	内田康夫著『斎王のみち－伊勢斎宮の文化史－』中日新聞本社○◇ 池田美由喜著『鶯草－大津皇子とその姉と－』新風舎◇ 郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸○◇ 『伊勢斎王の恋』近代文芸社○◇ 『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社○◇



第27回（平成21年度）斎王まつり実行委員会活動

- 1月 12日(月) 会計監査
- 17日(土) 役員会
- 25日(日) 実行委員会総会
- 2月 1日(日) 視察研修(長谷～明日香へ)
13日(金) 出演応募者締切
19日(木) 役員会(斎王役他書類選考会)
22日(日) 童・童女出演者説明会(中央公民館)
27日(金) まつり実施班会議
28日(土) 梅まつり用意
- 3月 1日(日) 梅まつり(斎王・女別当出演)
8日(日) 斎王役選考会(中央公民館)・役員会
19日(木) 役員会
29日(日) 斎宮跡指定30周年記念式典(功績表彰を受ける)
31日(火) トランショ出演予定者締切
- 4月 10日(金) 本部会議
15日(水) トランショ出演者会議・上御糸地区自治会議出席(協賛金お願い)
斎王市出店者会議(研修室)
19日(日) まつり実施班作業・斎宮地区自治会議出席(協賛金お願い)
24日(金) 全体会議
26日(日) ステージ作業・明星地区自治会議出席(協賛金お願い)
- 5月 2日(土) 大淀地区自治会議出席(協賛金お願い)
7日(木) 中勢警備システム打合せ
10日(日) 群行出演者説明会(牛葉公民館)
下御糸地区自治会議出席(協賛金お願い)
11日(月) 三重県知事表敬訪問(斎王・女別当・実行委員代表他)
15日(金) トランショ出演者最終会議
20日(水) 斎王市出店者最終会議
24日(日) 町内のぼり立て
29日(金) 最終全体会議・依頼した出演者説明会
31日(日) ステージ作り
- 6月 2日(火) 役場職員ボランティア説明会
4日(木) 着付班衣裳出し
5日(金) バ
6日(土) 第27回斎王まつり「前夜祭」
7日(日) 第27回斎王まつり「禊の儀」「斎王群行」
12日(金) 着付班衣裳片付け
14日(日) 看板等倉庫へ収納・会議室片付け・ロマンにて打上
19日(金) 衣裳出し(いつきのみやへ貸出し)
21日(日) 「斎宮跡」30周年記念式典(保存協会より感謝状授与)
- 7月 4日(土) 観光協会「安全祈願祭」(斎王・女別当協力)
10日(金) 役員会
18日(土) 「斎宮ふれあいまつり」協力
29日(水) フォトコンテスト一次審査
- 8月 7日(金) 役員会(フォトコンテスト会)(106名 268点出品)
23日(日) フォトコンテスト表彰式・作品展示披露(明和ジャスコ中央特設通路)
- 9月 10日(木) 役員会(第28回斎王まつりについて)
13日(日) 2009・第29回世界新体操選手権三重大会へ協力(斎王・女官2名)
26日(土) フォトコンテスト作品展示撤去(明和ジャスコ)
30日(水) 臨時総会
- 10月 3日(土) 「いつきのみや十五夜観月会」女別当協力
13日(日) 2009・第29回世界新体操選手権三重大会へ協力(斎王・女官2名)
- 11月 4日(水) フォトコンテスト写真展示(百五銀行 斎宮支店11月30日まで)
7日(土) 「斎王の宮」オープニングセレモニーに協力(斎王)
「いつきのみや浪漫まつり」協力(斎王・女官)
8日(日) 明星「古道まつり」出演協力
16日(月) 衣裳かたつけ
18日(水) 衣裳洗濯
役員会
- 12月 2日(水) 町助成金について(説明懇談)
28日(月) 事務所仕事納め

第28回（平成22年度）斎王まつり実行委員会組織体制

役職名	構成する委員の氏名					
本 部	代表 森下 清 副代表 笛川 浩 副代表 田中 貢 副代表 岩佐康則 事務局 野畠久子					
会計監事	久世 晃 浅尾美代子					
顧 問	名誉会長(町長) 中井幸充 木戸口眞澄(初代会長) 西場信行 大野秀郎 小田秀雄 大和谷正 辻 正信 辻 丈昭 橋本久雄 山川充造					
相談役	辻 孝雄 北村純一 東谷泰明 森島啓之 西川道子					
小委員会名	任務分担の内容	◎西村直克	○竹内克巳 八田秀穂	○間宮一彦 原野正之	大西俊次郎 堀木茂生	辻 孝雄 森島啓之 中川裕正 森西捨巳
総務班・財務班	総務の実施 財務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等 斎王市の実施					11
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	○東谷泰明	○北川和樹 中瀬正実	石田豊喜 橋本久雄	奥山憲生 澤 恒一	田端幸男
着付班	着付け準備と後片付け	○新田一子	○清水清子 新谷千恵子 安井澄代	○田中政子 夏井ちはる 菊矢てる子	○西宮幸代 西川美代子 衣斐喜代美	今西明美 樋本英子 丸山敬子
まつり実施班	前夜祭の実施 禊の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施	○関岡武夫	○北岡 泰 ○森田 均 北山房夫 中西修一 辻 満寿美	○北村哲也 ○森菜津子 小林順一 中村好富 永島せい子	○土井祐治 石田勝生 小林邦久 西岡信行 東谷泰介	○西山浩一 伊串金市 佐々木久夫 田中真司 長谷川新 清水恵子
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	○山内 理	○八田明美	内山克巳		24
						3

敬称略・順不同 (◎は班長 ○は副班長) 平成22年2月28日現在

群行衣裳



れ、貞觀・延喜式制に継承されているが、そ

の後次第に増員され、長元八年（一二〇三五）

の『看督長見不注進状』（『平遺』五一九～三

七）では左右合わせて十五人を数える。獄直

や犯罪の搜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出

動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き

過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにさ

れる一方で、恐れられもした。その武力は悪

鬼魔神を懾伏するという信仰を生み、「徒然草」二〇三には主上御惱の時、五条の天神に

看督長の鞍をかけることが見え、「神道名目類聚抄」には守門の神を看督長と称したとある。

隨身【ずいしん】

随身とは、貴族が外出する際に警護にあたつた近衛府の官人を指します。それには高い教養

と優美な美貌が求められたと云います。

駕與丁【かよちょう】



斎王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。



長奉送使【ちょうぶそうし】



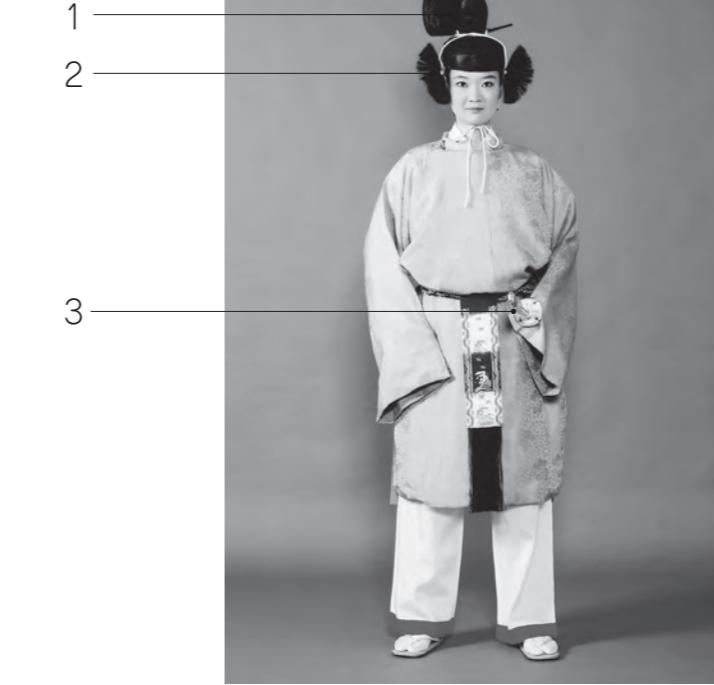
監送使ともいいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

檢非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが檢非違使となり、やがて衛府や京職、彈正台などの権限を吸収し、王朝國家有数の警察機関となつたのである。

看督長【かどのおさ】

檢非違使の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら



2番 おいかげ 綾

1. かんむり 冠
2. おいかけ 綾
3. たち 太刀

監送使ともいいう。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の譲位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任され、都に帰る決まりになつていきました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送つていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、『源氏物語』『伊勢物語』など、多くの文献に残されています。

十一單【じゅうにんにひとえ】

十二單とは近世になつてからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といいます。单衣の上に袴を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないブリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。



内衣の意味で、垂領、広袖の袴仕立てで地紋があり、一枚重ねて用います。单は袴と同形ですが、袴、丈ともに長く、单仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣は表衣と同じで紋様はありません。桂は、



内侍または命婦【ないしまとはみょうぶ】

内侍や宣旨が、斎王の住むエリアで公的性格をもつ仕事をこなす女官であるのに対し

て、乳母のように、斎王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではないかと考えられます。が、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、斎宮には、斎王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになつていました。



采女【うねめ】



女孺【にょうじゆ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、斎宮に采女がいたかどうかについてはよくわかつていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】



都の官人が、家族で斎宮に赴任したということも考えられますから、その子供達が斎宮内に住んでいたという可能性があります。しかし、群行の一員として加わっていたということはなかつたよう

斎王フォトコンテスト



「雅」
甲賀市 脇 治雄

特別賞



「火起こしの儀」 鈴鹿市 酒井 房子

斎宮歴史博物館長賞



「禊に向う」
志摩市 松井 文郎

特別賞



「微笑み」 津市 野末 園

特別賞



「歓声」
松阪市 戸川 明

特別賞



「禊をして」 伊勢市 井村 義次

特別賞



「まなざし」 津市 江 紹介

斎王賞



「菖蒲を手に」 明和町 井上 清一

町長賞



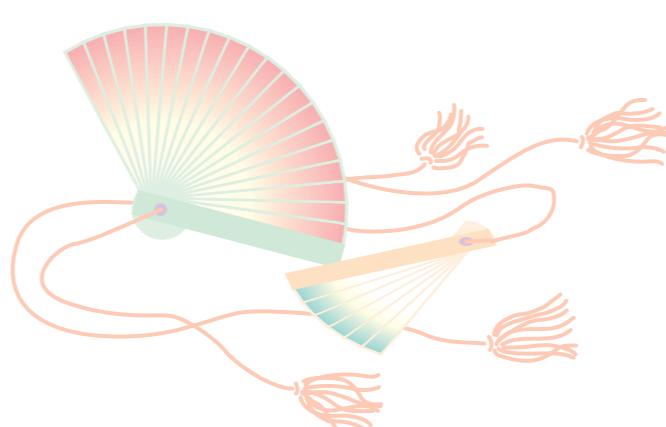
「斎王と子供斎王」 伊勢市 島田 てるみ

明和町教育長賞



「禊の儀」 松阪市 山下 和英

明和町議会議長賞



フォトコンテスト

● 応募方法

- ・応募には郵送と斎王まつり事務所受付の2通りがあります。
- ・応募作品は応募者本人が撮影したもので1人3点以内、未発表の作品に限ります。
- ・カラー、白黒作品でサイズは四ツ切のみ
- ・応募票の各項目に楷書で記入し、題名、お名前には必ずふりがなをつけてください。
- ・応募作品の裏面に応募票を貼付してください。(コピーも可)

● 締切

・平成22年7月16日(金)消印有効

● 郵送方法について

- ・郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。

● 選考方法・入賞・入選

- ・作品は斎王まつり実行委員会で選考いたします。
- ・入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることができます。

- ・発表は、8月5日前後、新聞紙上にて発表します。

- ・入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることができます。

- ・パンフレットやポスター、ホームページなどをへの使用権は主催者に帰属します。

- ・作品の返却
- ・応募作品はご返却いたしません。

● 応募先

・応募・問い合わせ先

〒515-0321
三重県多気郡明和町斎宮280-11番地

電話
FAX
0596-152100
0596-1521720744
斎王まつり実行委員会事務局
斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係



第25代斎王役
鳥井 麻生

斎王役を務めて

前夜祭の興奮も冷めぬまま、期待と緊張でドキドキしながら迎えた斎王まつりの日は、とてもさわやかな快晴に恵まれました。実行委員会の方々や、楽しみにして来ていただいている皆様や、参加者の願いが通じたのでしょうか。

私は十二単が着たくて斎王まつりに参加を申し込んだので、憧れの十二単に袖を通しての感動は今でもはつきり覚えていました。禊の儀を目前に不安いっぱいの私を、「丈夫」と送り出してくれた実行委員の方々、会場の皆さまの笑顔や声援にとても励されました。

斎王群行では、手を振つて下さる方、「斎王さん！」とあたたかい声をかけてくださる方に囲まれ、嬉しくて緊張も吹っ飛んで心からおまつりを楽しみました。

明和町という、歴史にも温かい人々にも恵まれた地で、一生忘れられない経験をさせてもらって、素敵な方々の笑顔に出会えたことは、私の大事な思い出です。

今年も、来年も、その先もさらに素敵なかから祈っています。



葱華輦復元模型(斎宮歴史博物館蔵)



子ども斎王
田所 藍耶

子ども斎王を務めて

斎王まつりで一番ドキドキして、嬉しかったことは、開会せんげんをしたことです。とてもきちんとしましたが、うまく言えてホッとしました。

子ども斎王役は、取材やインタビューがあつてすごくびっくりしましたが、いい思い出になりました。

子ども斎王のあたりクジは、今でも大切にとつておいてあります。

斎王制度は、飛鳥時代（六百七十三年）天武天皇が伊勢神宮に「壬申の乱」の戦勝祈願をして勝つことができたことに感謝して、天皇家の御杖代として長女の大来皇女をここ「斎宮」に遣わし、それから約六百六十年間続いた制度でした。都から五泊六日をかけ、斎王二行は「斎宮」まで群行してきたのです。そして、五十数代の斎王やこの地に関わった人々を偲び、「斎王まつり」は始まりました。まつりの群行は、一番華やかだった平安時代の群行を再現したものです。

野花菖蒲が咲く初夏、斎王まつりの季節がやってきます。今年は、前夜祭で夜の禊を行います。

斎王まつりも「語り継ぐ いにしえのロマン」をタイトルに未来に向かう新しい群行の出発にしたいと思います。

全国からたくさんの人々がここ「斎宮」に集い、ふれあえるすばらしいまつりになればと願っています。



語り継ぐ いにしえのロマン

斎王まつり実行委員会 代表 森 下 清

主催／斎王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、国土交通省三重運輸支局、斎宮歴史博物館、(財)国史跡斎宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会
近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)
問い合わせ◎斎王まつり実行委員会事務局 TEL0596-52-0054FAX0596-52-7274